

25年度碎石販売量135万m³ 静岡県碎石協組員合計

静岡県碎石業協同組合
調べによると、2025年度(令和7年度)の組合員(資助会員)23工場合計の仕入品を含む碎石(ベース)材の販売量は前年度比16.0%減の135万8千・7%減の135万8千m³となり、年連続減少した。用途別にみると道路用は微減、コンクリート用は減少した。再生材を含めると年連続減少は16.0%減の162万

4千m³。ベース)材を地区別にみると全地区が減少したが、主要生産地の浜松や富士は3~4%の減少に留まった。多い順に浜松45万m³(3.3%減)、富士44万6千m³(4.3%減)、静岡29万1千m³(6.2%減)、沼津13万6千m³(4.9%減)、ト田・西伊豆3万4千m³(32.6%減)、伊東1千m³(75.2%減)、豊田やロ。県内を東部(伊豆、沼津)、富士、中部(静岡)、西部(浜松)の大きく4地域に分けると、ベース)材のシェアは西部と富士が割合増、中部が割合減、東部が割合増を占める。一方、再生材のシェアは東部が割合増と高く、西部と中部が割合減、富士が1割増である。用途別販売実績は道路用が0.4%減の63万5千m³。多い順に粒度調整碎石17万2千m³(5.1%減)、骨砕石16万8千m³(6.8%減)、タマシ

シヤシヤ)の1万5千m³(34.8%増)、7号碎石6万3千m³(7.5%減)、5号碎石1万7千m³(0.6%増)など。コンクリート用碎石は21万5千m³(10.0%減)、砕砂は18万3千m³(4.3%減)。このほか鉄道専床用碎石7千m³(47.1%増)、割果4万8千m³(35.6%減)、その他の碎石26万7千m³(7.7%減)。再生材は7.7%減の26万6千m³で、このうち、再生盛土材12万4千m³(5.4%減)、再生基礎裏込材9万3千m³(14.3%減)、再生土層路盤材4万9千m³(0.7%増)である。